

平成30年度
ふるさとづくり大賞

受賞者の概要

平成31年1月21日

最優秀賞

豊重 哲郎【鹿児島県鹿屋市】	1
----------------	---

優秀賞

小浜市阿納体験民宿組合【福井県小浜市】	2
岡山県西粟倉村	3

団体表彰

一般社団法人ウィーアーワン北上【宮城県石巻市】	4
ユニバーサル・ビーチ協会【茨城県大洗町】	5
特定非営利活動法人四街道プレーパークどんぐりの森【千葉県四街道市】	6
学校法人中央学院高等学校 生物部昆虫班【千葉県我孫子市】	7
街かど博物館館長連絡協議会【神奈川県小田原市】	8
新潟県立佐渡中等教育学校 佐渡を豊かにする「中等生PROJECT」【新潟県佐渡市】	9
能登井事業協同組合【石川県穴水町】	10
岐阜県立益田清風高等学校【岐阜県下呂市】	11
猪名寺自治会（猪名寺忍者学校実行委員会）【兵庫県尼崎市】	12
五斗長まちづくり協議会【兵庫県淡路市】	13
株式会社黒滝森物語村【奈良県黒滝村】	14
リアルマック【鳥取県倉吉市】	15
二条里づくりの会【島根県益田市】	16
えーひだカンパニー株式会社【島根県安来市】	17
特定非営利活動法人九州車いすテニス協会【福岡県飯塚市】	18
大中尾棚田保全組合【長崎県長崎市】	19
NPO法人ふるさと創生【熊本県阿蘇市】	20
庄内神楽座長会【大分県由布市】	21
特定非営利活動法人夏花【沖縄県石垣市】	22

地方自治体表彰

秋田県由利本荘市	23
群馬県みなかみ町	24
愛知県岡崎市	25

個人表彰

森山 奈美【石川県七尾市】	26
小島 富佐江【京都府京都市】	27

奨励賞

田中 輝美【島根県松江市】	28
---------------	----

※【 】内は、受賞者の所在地（住所地）又は表彰の対象となった活動の主な実施地域

※ 受賞者の活動内容について、紹介ページにおいて、以下の活動分野に分類した。

活動分野一覧

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

企業化支援

定住促進

観光振興・交流

まちなか再生

安心・安全なまちづくり

環境保全

産業振興

コミュニティ

産学官連携

その他（ ）

※ その他については、（ ）内に該当する活動分野を記載

豊重 哲郎

鹿児島県鹿屋市

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

環境保全

コミュニティ

その他（人材育成）

概要

土着菌を活用した畜産環境改善等の取組や、空き家を活用した県内外から芸術家を呼び込む「迎賓館」の建設、集落内の遊休地を活用してさつまいもを栽培し、そのさつまいもを使ったオリジナル焼酎「やねだん」の開発など、住民が一体となり独自の地域づくりに取り組んでいる。

評価された点

- ・ 行政に頼らない「むら」おこしを標榜し、高齢者から子どもたちまで、一人一人が役割をもって何らかの活動に参加してもらっている。オリジナル焼酎の開発などの六次産業化を成功に導き、集落の独自財源を生み出した。やねだん芸術祭などの取り組みも活発で、全国の地域の範となる活動である。
- ・ 「やねだん」の実践と成果についてはすでに全国的に知られるところであるが、さらに近年は、地域づくりのリーダーの育成に力を入れ、「やねだん故郷創世塾」の卒業生はすでに全国で1,034名に上る。豊重氏は次世代リーダーの育成に情熱をかけており、こうした実績も合わせて評価したい。
- ・ 集落内の活性化に寄与している点はもちろんのこと、「故郷創世塾」で塾長を務め自身の地域だけでなく他地域の地域再生にも貢献している。
- ・ 長年のまちづくりに取り組み、自立した地域、人材育成で大きな成果を出してきた。その真摯な姿勢は素晴らしい。
- ・ ユニークかつ行政に頼らない独自の活動を長年続け、幅広い成果を上げていることを評価したい。
- ・ やねだんの取り組みを牽引してきた才覚とエネルギーは非凡であり、評価に値する。
- ・ 町内会組織の事業化により、住民一体となったオリジナルな地域づくりを行っている点を評価。



【豊重 哲郎 氏】



【オリジナル焼酎「やねだん」】



【やねだん故郷創世塾(第24期)】

小浜市阿納体験民宿組合

福井県小浜市

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

観光振興・交流

産業振興

コミュニティ

概 要

小浜市の北東部の海岸線に位置する阿納地区は、古くからフグやタイの養殖など半農半漁とともに、漁家民宿を経営してきた。昭和40～50年代頃には、大勢の海水浴客が押し寄せ民宿経営も順調であったが、レジャーニーズの変遷に伴い、宿泊客は減少、さらに景気の低迷によるフグ需要の伸び悩み、後継者不足、経営者の高齢化など、集落の人口減少が課題となっている。

地域の強みである「漁業・養殖」と「宿泊」を活かした漁村集落ならではの体験メニューの開発により教育旅行商品の造成に取り組んでいる。



【釣り堀でのタイの釣り上げ】



【タイ捌き】



【シーカヤック】

評価された点

- ・ 漁家民宿の出資により設立された「ブルーパーク阿納」を中心に、独自の体験コースを考案し、小中学校の修学旅行を受け入れ成功している。漁業の集落の活性化のモデルとして期待できる。
- ・ 漁業民宿事業者が、自ら生徒達に関心を持つプログラムを開発、提供し、教育旅行の受け入れを拡大。教育旅行で訪れた県外の生徒が市内の高校海洋学科へ進学、市内への定住希望につながるなど、1ターンや定住化の促進に寄与しているのも評価できる。今後のインバウンド対応に期待。
- ・ わずか10年足らずの取組みで受け入れ数を20倍以上に増やすなど、アイデア次第で集客を伸ばすことができるという良い実践例。単なる体験メニューにとどまらず、民宿の主人や女将と学生が語らう場を設けるなどの工夫も評価したい。
- ・ 体験メニューの考案だけでなく、同時に受け入れ態勢の整備をするなど組織強化を行っている点に継続性が見られるため評価できる。また、取組が移住や後継者の確保につながってきている点も評価できる。
- ・ 地域資源を生かして、旅行商品化した好事例であり、売上数字も着実に伸びている。
- ・ 漁村集落ならではの体験メニューによって、人気ある教育旅行の目的地となっている。このことを通して地域の活性化に寄与している。
- ・ 危機から自ら立ち上がり、事業展開をおこなうことで、地域再生した好事例。具体的な成果もあげており、後継者確保につながるなどインパクトも大きい。
- ・ 地域づくりの代表的看板ブランドとしての役割を果たしつつ、それ故に次のステージとしての期待も大きく、地域ブランドづくりによる教育旅行商品のモデルとして、より一層の大きな貢献を期待しているところです。

岡山県西粟倉村

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

企業化支援

定住促進

環境保全

産業振興

コミュニティ

概 要

「上質な田舎」、「百年の森林構想」、「心産業」の3つをキーワードに、森林という現在では価値がないと思われがちな地域の自然資本の価値向上や、地域に眠る未活用の資源を価値に変える取り組みなど、行政・森林所有者・林業事業体・ローカルベンチャー等の様々な事業体が協働し、顧客づくりと商品づくりを進め、小さくても「身の丈に合った」雇用や経済を生むことで、地域の持続につなげている。

評価された点

- ・ 地域の資源を見つめ直して、行政、林業関係者、ローカルベンチャーなどとのコラボレーションで成果を収めており、中山間地域の活性化において全国の範となる取り組みと考える。
- ・ 日本初の地方自治体による地方創生ICOの実施や、再生可能エネルギーによる自給率100%を目標とする地域づくりは、先進的で刺激的な取り組み。地域内に起業家が生まれているなど、今後の発展が期待される。
- ・ 面積の95%を森林が占める西粟倉村の林業再生の取り組みは全国的にも大きな注目を集めてきた。林業による地方創生のトップランナーの一つと言え、表彰に値する。
- ・ 地域に合った方法で、持続的な取組を進めている点が評価できる。また、未活用の資源を見つけるだけでなく様々な業態を結びつけ、地域内で雇用などを生んでいる点も評価できる。
- ・ 小さな自治体でのまちづくりの資源を生かすことが可能であるとした全国での優秀な事例。
- ・ 森林管理のモデル的な自治体である。若者の人口流入でも全国から注目されている点を評価したい。
- ・ 地域の資源である森林を活用した地方創生の活動、生業を生み出す活動として評価。
- ・ 上質な田舎というコンセプトのもと進められてきた数々の政策は多くの自治体の見本にもなっており、秀逸である。ローカルベンチャーの育成にも積極的で具体的な成果をだしている。新たな取り組みとして、ICO実施を日本で初めて表明するなど常にチャレンジを続ける姿勢と具体的な挑戦は評価に値する。
- ・ 森林保全の価値を向上させており多くの移住者を受け入れている点はすばらしい。

百年の森林構想がもたらしたもの



【百年の森林構想】

森林事業から育ったローカルベンチャー群



【ローカルベンチャーによる協働】

概要

震災により壊滅的な被害があった地域で、自らも被災した地元女性たちが中心となり、地域の復興、復興から創生へ向けた活動を展開している。

防災集団移転事業の計画段階から、自治体や住民、専門家と連携し、それらの中間支援の役割を担いながら、現在もなお、住民の生活復興を支えている。

また、東日本大震災で被災し、閉鎖となった白浜海水浴場の「2日間の海開き」など地域資源の再興と創生に取り組むほか、新たな集落での住民自治システムの構築など幅広く発展的に活動している。



【住民ワークショップ】

評価された点

- ・住民や専門家、自治体がうまく連携して活動を進めている。会員の7割は、20代から40代の若手であり、今後の発展性も見込まれる。
- ・防災集団移転における住民の合意形成は素晴らしい取り組みである。
- ・防災集団移転促進事業において100%の話し合いで住民合意を取り付けることに成功した唯一の地域であり、そのプロセスに貢献している。また、イベントとして2日間の海開きなど、インパクトの高い活動も行っている。



【白浜海水浴場「2日間の海開き」】

安心・安全なまちづくり

観光振興・交流

コミュニティ

産学官連携

その他
(ユニバーサル社会の実現)

概要

「だれもが幸せな社会」を実現するために様々なユニバーサル事業を展開し、茨城県大洗町発「だれもがいっしょに楽しむ」人が支えるユニバーサル文化を発信し続けている。

幅広い層の支援者と自治体や観光庁、大学などと協働でシンポジウムや様々な体験事業等を実施している。

日本初ユニバーサルビーチの取組では、夏季シーズン1,350名を超える車椅子利用登録者がある。さらに毎月定例でインクルーシブな学び場を設けるなど「ユニバーサル」を推進している。



【水陸両用車椅子で楽しむ利用者】

評価された点

- ・地道な活動を積み重ねてきたことにより、ふるさと大洗としての認知度が高まり、地域社会への貢献につながっている点が評価できる。
- ・障がい者に限定したサービスではなく、ユニバーサルな観点でまちづくりに活かし、だれもが一緒に楽しむことを目指した「ユニバーサルビーチ」を日本初で実現し、継続している点は評価に値する。
- ・平成9年から障がいのある方や、高齢者が自由かつ安全、快適に活動できるよう、地域が一体となつてつくりあげた日本初のユニバーサルビーチの取組みである。幅広い層の支援者と自治体や観光庁、大学と協働しながら継続している点が評価できる。
- ・大学、行政、福祉団体、NPOなど、多様な主体による連携がうまくいっている。誰もが一緒に楽しむことで、心のバリアフリーを実現しようとしている点を評価したい。2020年の東京オリンピックを前に、今後一層、必要とされる取組みだ。
- ・「海水浴客の減少」といった地域の社会課題に対する取り組みから、ユニバーサルな取り組みへと活動を進化させている。市民、行政、民間企業、大学と連携し、人材育成にも注力している。補助金に頼らない組織運営に向けて法人化の推進も評価できる。



【海辺の安全キャンペーン紙芝居】



【夏季シーズン以外の活動:車椅子体験会】

環境保全

コミュニティ

その他（子育て支援）

概要

地域の里山保全と子どもたちが身近な場所で自然に親しむ環境を整えるために、平成17年からプレーパークを開催している。

地域の大人と子どもが里山を整備し、子どもたちがチャレンジや失敗できる場として子どもたちの育ちを支える活動を行っており、様々な地域団体等との連携により生まれる人とのつながり、新たな活動・団体の創出、多様性を受け入れる環境づくり等の活動を行っている。



【プレーパークでの「遊び」】

評価された点

- ・都市部でありながらも、里山や自然環境の魅力に触れる機会を提供している。行政、中間支援組織、市民団体などと連携、協力を深めている点も評価。新たな活動団体も立ち上がり、今後の発展も期待できる。
- ・プレーパークは全国的に見られる取組ではあるが、遊び場の提供以外にも乳幼児親子の支援や地域コミュニティづくりの活動など多岐に渡る活動を行っている点が評価できる。
- ・プレーパークの運営は平成17年度の3,000人から平成29年度の11,000人に拡大している。プレーパークで出会ったメンバーが新たな活動をおこなうなど、活動の幅が広がってきている。



【プレーワーカーとのふれあい】



【プレーワーカーや利用者のこどもたち】

概要

我孫子市が設立を進める野外博物館「谷津ミュージアム」内の昆虫類調査を、市からの依頼を受け実施している。また、市民を招いて谷津の自然観察会や勉強会を毎年開催するほか、谷津展や各種研究発表会などに積極的に参加し、谷津と自然の素晴らしさを人々に伝える努力を続けている。

我孫子市で毎年開催されるジャパンバードフェスティバルでは環境学会を主催し、市内だけではなく関東圏の小中高校生を招き、研究発表会を行っており、子供たちが谷津だけではなく、広く生物と自然について興味関心を抱くきっかけとなる場を作っている。

評価された点

- ・ 高校生の調査・研究活動が、市民の地域理解を深め、他地域からの訪問者を増やしている好事例。調査研究から、論文作成まで生徒の自主性に任せている点も評価できる。
- ・ 生徒自らの立案、企画によって活動を進めている。地域に貢献したいという生徒自身のボランティア精神を高く評価したい。今年で16年目となる研究の成果は全国的にも評価され、地域で活用されている点もすばらしい。
- ・ 高校生による継続的な活動であること、地元での自然環境保全や理科教育への貢献を評価。
- ・ 文化継承を長く続けていくこと、そして課題は時と共に変化しながらかつ、深化する両面に取り組んでおられます。高く評価したいと思います。
- ・ ほとんどの人が訪れることがなかった谷津にたくさんの方が来てくれるようになった。注目されることにより自主的に活動していることが評価できる。



【標本の作製作業】



【市民を招いての自然観察会】



【研究成果の展示発表】

概要

蒲鉾、干物、木工など、城下町・宿場町である小田原で栄えた地場産品を取り扱う老舗を「街かど博物館」として認定し、店主による説明や店内の一角を利用したパネル展示、製作体験を実施することなどにより、地域産業の魅力を発信し、後世に伝えている。

平成30年4月1日現在、20館ある街かど博物館は、日常のまち歩き観光における拠点の役割を担っており、年に5回程度、各博物館を巡るまち歩きツアーを開催するほか、ファンクラブ通信を発行するなどの取組を実施している。



【店主による説明】

評価された点

- ・ 城下町の地場産品を製造販売する老舗を「街かど博物館」として認定。店主による説明やパネル展示、製造体験などを通して、地場産業をPRし、地域内外の人々との交流を促進している。現在、街かど博物館は20館にのぼっており、学校教育、まち歩きツアーやファンクラブ通信など活動に発展している。地場産業の振興の範となる取り組みである。
- ・ 「街かど博物館」という構想はまさに「あるものさがし」の典型。様々な業種の事業者同士の連携によって、回遊性を高め、地域活性化につなげている。ファンクラブの3分の1は地元市民であり、市民とともに地場産業の振興を進めようとしている点も評価したい。
- ・ 地場産業、地域性を活用した「時計の針が止まらない」博物館活動として評価。



【製作体験】

新潟県立佐渡中等教育学校 佐渡を豊かにする「中等生PROJECT」新潟県佐渡市

定住促進

コミュニティ

産学官連携

概要

生徒たちが、島の課題とビジョンを主体的に考え、地域の大人と一緒に、アイデアをカタチにする実践型の学習プログラムを構築した。本プログラムはビジョン設計・ビジネス設計・プレゼンテーション・実施・成果発表のプロセスからなり、今までになかったものを自分たちで創り出し、佐渡を豊かにするPROJECTを実現している。

島内の高校生は卒業すると、その多くが佐渡の魅力をも十分に知らないまま島外に進学してしまい、若年層の流出が続いている。このプログラムは、島を離れても、ふるさととの関係・つながりを保ち、将来的に地域を盛り上げてくれる人材を育成する事を目的としている。



【着物×自然 学校風のカフェ空間を演出】

評価された点

- ・ 高校生が自分たちのふるさとの魅力を再発見し、誇りを持つきっかけとなる非常にユニークな取り組み。平成29年に始まったばかりの活動ではあるが、地域のボランティアの大人がプロジェクトをサポートし、資金も、募金や協賛金で賄うなど地元を何とかしたいという地域住民の自発的取り組みであり、今後の一層の展開が期待される。
- ・ 将来を担う子どもたちに郷土愛や島づくりへの参画意識、地域の人々への感謝の気持ちが生まれるとともに、地域の人々も子供たちの行動力に刺激を受けて協働するようになるため、主体性や協働性の高い取組となっている。また、生徒がプロジェクトを実現させるためのプロセスやサポート体制も明確になっており、評価に値する。
- ・ ユニークで実践的なプロジェクトであり評価できる。
- ・ 若い世代が自分たちの地域を再発見するいい機会になっている。ゆるやかに、そして幅広く地域が巻き込まれている。
- ・ 日常の地域の暮らしと一体となって、「島民の声」に応えながら進められており、若い力の呼び起こす活動の反響は大きく島民の心を動かしている。
- ・ 若者が島外に出てしまう中、島の中で豊かさを実感できることはすばらしい。何もなかったところから何かをしようとする変化が生まれつつあることが評価できる。



【地元シェフや農家の協力の下、佐渡産イチゴのメニューを考案】

概要

過疎化が進む奥能登の活性化、活力維持のため、県、奥能登2市2町（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）、民間事業者等で構成する奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会が発足し、地域資源の掘り起こし、交流人口の拡大を目指している。

食、風景等をテーマにプロジェクトに取り組む中から、奥能登地域の新しい地域ブランドとして「能登井」を開発し、平成19年12月から能登井の定義を遵守し、認定を受けた飲食店で提供を開始した。平成22年12月に販売店舗による「能登井事業協同組合」を結成し、「能登井」ブランドの向上に取り組んでいる。



【全国井サミットでの能登井の販売】

評価された点

- ・奥能登の地域資源をふんだんにいかした能登井を展開する事業。年間1億円以上の売り上げを達成し、地域ブランドとして定着している。地域資源を再認識し、観光、交流人口増大に貢献していることは全国の手本ともなる取り組みである。
- ・実践的な地域ブランドが身を結び、さらに売り上げを作り出した素晴らしい事業である。この事例のような、稼げるふるさとづくりに今後大いに期待したい。
- ・平成22年12月に販売店舗による「能登井事業協同組合」を結成した「能登井」ブランドの向上に向けた取り組みは経営として成り立っている本格的な活動として評価される。
- ・能登井の売り上げが大きく伸びており、観光客の人気を集めて経済効果を生み出していることが素晴らしい。



【能登井を提供する店主たち】

概要

下呂市内唯一の高等学校であり、平成17年の学校統合以後、地域との交流や連携を進めながらさまざまな学習活動を継続して行っている。

学校授業での学習活動における課題学習や商品開発、校外で行う地域文化理解や実習活動のほか、部活動においても地域住民と連携して行っているボランティア活動など、多面的な地域連携活動を通して、地域に貢献できる人材の育成と、地域とともに成長する学校づくりを進めている。



【観光ボランティアガイド】

評価された点

- ・ 地域連携による学習に積極的に取り組んでおり、地域と高校の相乗効果をもたらしている。地域のよさ、魅力を認知し、ネットワークを広げることを実現。地域づくりの担い手づくりや確保に期待がもてる。
- ・ 地域と連携した商品開発や実習活動を通じて単なる知識の習得にとどまらず、生きた真の学びを実践している。活動を継続的に実施することで学校と地域の連携が重層的な広がりを見せ、「地域の学校」として大きな役割を果たしている。
- ・ 部活動などの授業以外の部分でも地域に学ぶ機会を設け、郷土愛醸成につながっている点が評価できる。
- ・ 設置学科の特色を生かし、地域と連動した活動は評価できる。
- ・ 地域と連携した探究活動や商品開発活動などを実践している。「地域に貢献する」という視点が一貫している。
- ・ 市内唯一の高校を盛り立てようと、地域全体で生徒が育つ環境づくりに取り組んでいる点を評価。
- ・ 校外各団体との関わりを持つことで地域への愛着心が増している。生徒自身の自己肯定感の向上につながっている点が評価できる。



【開発したジェラートの販売】



【救急衣料回収活動】

概要

尼崎市は昭和45年をピークに10万人もの人口が減少し続けており、近年では中学生以下の子どもをもつ家庭の転出超過が顕著である。アンケートでは教育、住環境、治安・マナーが転出要因であった。

この課題解決のためには、まちへの誇りや愛着が鍵となると考え、「地域の子は地域で育てる」を合言葉に、地域を愛し、地域に誇りを持てる子どもたちを育てるため、「忍たま乱太郎」を模した忍者になりきり、忍者の術として猪名寺・佐撲丘の自然や歴史等を体験し、その大切さを知るプログラムを考え、実践している。



【忍者の術】

評価された点

- ・ 子供達が興味を持つ忍者キャラクターを上手に活用し、地域への関心を高めると共に、自然との共生を見につけさせている好事例。生徒の保護者のみならず、地域自治体、大学などとの連携も評価できる。
- ・ 忍者になりながら体を鍛え、地域に溶け込む活動は非常にユニークであり、遊び心がある。
- ・ 地域住民参加、参画型な活動で、かつ次世代の子供たちを主役とした地域活動として評価。
- ・ 地域の子は地域で育てることをスローガンに、地域に誇りを持てる子供達を育てることに取り組み成果を上げている点が評価できる。
- ・ 子育ての取り組みにおける地域課題を地元で把握し、子供達にも分かり易いアプローチで取り組んでいる点を評価。



【忍者学校 卒業式】

五斗長まちづくり協議会

兵庫県淡路市

地場産品発掘・ブランド化

観光振興・交流

産業振興

コミュニティ

概要

平成16年の台風により農地やため池に壊滅的な被害が発生。集落存亡の危機に直面し、災害からの復旧、復興、集落の課題解決について地域が一体となり協議会を設立した。

五斗長営農組合の設立のほか、国内最大規模の鉄器製造史跡である五斗長垣内遺跡を活用したイベント等を開催し、都市農村交流イベントを通じた地域資源のPRを実施している。



【集落営農】

評価された点

- ・平成19年に五斗長営農組合を設立し、玉ねぎを中心とした農作物のブランド化に成功。発掘された遺跡を活用したイベントを通じて、都市農村交流を実現し、リピーターを生み出している。地域一体となって災害復興を果たした取り組みは全国のお手本となる。
- ・農業耕作地の自然災害からの復興モデル。都市部との交流を地道に行い、ファン作りを進めている。
- ・台風被害から営農組合を設立して稼げる地域にしてきたことは評価に値する。
- ・平成16年の台風被害を契機に発足した団体。現在では地域の農地の80%を借り受け、営農を続けている。平成21年には営農組合を株式会社化して自立的な経営を実現している。



【都市農村交流イベント「たまねぎまつり」】

概要

黒滝村が主体となって創設した村の観光施設の管理運営を行う企業であり、社員一丸となって抜本改革と経営改善に取り組み、赤字体質から脱出して経営の黒字化を図っている。

地元高齢者の優先雇用（パート社員を含めた社員全体の70%が65歳以上）を始め、交通弱者である高齢者向けの食料・日用品の移動販売、観光農園による遊休農地解消等の事業を行い、過疎化が進む中山間地の村が抱える様々な問題について、その解決に向けて取り組んでいる。



【黒滝森物語村】

評価された点

- ・ 過疎化の中山間地域が抱える問題について、未来を見据えながら、村が主導し、企業と連携して解決に取り組んでいる。当事者である高齢者を巻き込み、活躍の場を作りながら、事業運営している点が評価できる。
- ・ 生き残りをかけて村民が出資し株式会社を設立。経営努力を重ね成果を生み出している。
- ・ 日本社会の課題である高齢者の高齢化を現実につきつけられている黒滝村にあって、健康長寿につながる地元高齢者のやる気と本気を引き出している活動として応援したい。
- ・ 自主的な地域の組織づくりとそれに符合させた適性の活動は、今後も地域の明日の姿を描くために非常に重要となっていくと考えられる。



【移動販売の実施】

概要

人口減少と高齢化が進み、コミュニティのつながりが希薄になりつつある中で、持続可能で豊かな社会を作るため、もう一度コミュニティを再生させ、困りごとを皆で共有・解決し、それぞれが持っている能力をシェアし合う社会の仕組みづくりを行っている。

金銭至上主義に陥りがちな現代において、地域の本当の豊かさとは何なのかを問い、人をつなぎ、地域を巻き込みながら、カーゴマルシェやIJU大学、IJUカフェなどを通じて社会構造改革に向け飽くなき挑戦をしている。

評価された点

- ・ 高齢者の買い物支援に、ゆっくりと進む三輪自転車だからこそ行えるきめ細かい見守り活動を融合させている点がユニーク。学生、移住者、地域住民を巻きこんだ持続可能な地域社会づくりを目指す取り組みである。
- ・ 移住者だけでなく地域住民も巻き込み活動することで、互いに助け合い、高め合う仕組みが形成されている。活動の参加者同士の共助、マッチング、コラボレーションも生まれているなど、発展性、持続性があると評価できる。
- ・ 地方移住を誘う動きが活発になる中で、里人と入り人とのよりよい関係性の構築をもめざすIJU大学のよき試みに期待。
- ・ 持続可能で豊かな社会を作るため、地域の本当の豊かさを問いながら、人をつなぎ、地域を巻き込み、困りごとを皆で共有し、解決に向けて個々人の能力をシェアし、コミュニティを再生させに向けて協力し合う仕組みは極めてユニークな挑戦である。
- ・ 活動は国内でも注目を集め始めており、いずれの地域も共通の課題を有している中で未来を拓く持続型活動のあり方は、特に新しい経済の仕組みとしての高く評価したいと思います。
- ・ コミュニティの減少により、地域のつながりが少なくなる中で、能力をシェアする仕組みづくりがすばらしいことだと評価する。
- ・ コミュニティの再生・創出に向けて、IJU大学、IJUカフェ等といったオリジナリティ溢れる取り組みをしている点を評価。



【IJUカフェでの交流会】



【IJU大学での講座】



【カーゴマルシェによる移動販売】

二条里づくりの会

島根県益田市

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

安心・安全なまちづくり

観光振興・交流

環境保全

コミュニティ

概要

益田市二条地区では、人口減少・少子高齢化の影響による若者世代の減少、高齢者世帯の増加、農業等の担い手不足、中学校の統廃合など様々な課題を抱えている。

このような課題を解決していくため、住民主体の地域運営を進める地域自治組織を立ち上げ、「定住対策・次世代育成・里山保全・歴史や文化の継承・地域資源の掘り起し・特産品のブランド化・情報発信・地区内外との交流」を繋げる元気な邑づくりサイクルに地域ぐるみで取り組んでいる。



【自主防災組織設立のための普通救命講習】

評価された点

- ・人口減少、少子高齢化などに対応するため地域自治組織を設立。移住交流促進や里山保全、地域資源の再認識、特産品ブランド化などのさまざまな事業を展開している。地域における自治組織運営の参考となる取組みと考える。
- ・地域ぐるみで元気な邑づくりサイクルを図る仕組みが功を奏し、3年間のUIターン者が37名と着実な効果を上げている。ICTを活用した地域ぐるみでの有害鳥獣対策は他地域への波及効果も期待できる。
- ・住民主体の地域自治組織がしっかりと機能し、工夫を凝らした取組みに力を入れている。「なりわい」「ひと」「くらし」という3つの部会がそれぞれ活発に取組みを進め、UIターン者が増えるなど、地域ぐるみの活動が成果をあげつつある。
- ・移住促進、新産業振興等幅広い事業を展開している。
- ・地域ぐるみで、多様なプロジェクトを展開している活動である点を評価。
- ・地区の取組みが評価され、地区外への知名度が向上し、ふるさと回帰につながっている点がすばらしい。ICTの利活用も独自の取組みと評価できる。



【どんぐりの森づくり活動】



【里山の保全(サル囲い檻実証実験)】

えーひだカンパニー株式会社

島根県安来市

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

観光振興・交流

産業振興

コミュニティ

概要

地域ビジョン達成に向けて、自治機能と生産機能を合わせ持った、住民による住民のための株式会社である。

行政の補助金やボランティアばかりに依存しない自立した地域づくりを目指し、生活環境、福祉、産業、観光、定住など多岐にわたる分野で、比田地域の活性化に向けて事業を展開している。



【地域ビジョンづくりの話し合い】

評価された点

- ・住民自ら株式会社を設立・運営している点に独自性が感じられる。また、地域住民の幸せを追求し、幅広い取組を行っている点が評価できる。
- ・株式会社設立により、具体的な事業実施が可能となり、地域住民の参加と意識改革が進んでいる。
- ・持続可能な地域社会づくりに向けて、必要な財源を生み出す機能を持った住民主体の株式会社を設立し、生活環境、福祉、産業、観光、定住などの分野で展開する事業は、極めてエコ的で興味深い。
- ・88の地域戦略プランを住民主体で策定し、30以上の事業を実施し、補助金などにたよらず黒字化を果たしている点は秀逸で評価に値する。
- ・利益ではない自治会の自立した株式会社の設立運営は新たな地域づくりの提案として評価出来る。



【定住相談会時での相談対応】



【地域から出産のお祝い】

概要

当時日本で唯一であった脊髄損傷専門の病院がある飯塚市において、車いすテニスを日本でいち早くリハビリに取り入れ、昭和60年に「飯塚国際車いすテニス大会」を開始した。

「イイツカ方式」と呼ばれる、自治体や企業、各種団体、学校、そして、市民による延べ2,000人規模のボランティアの支えにより本年度で34回目の開催を迎えており、アジアでは最高峰の国際車いすテニス大会に位置付けられたほか、障がい者スポーツ大会で初めてとなる天皇杯・皇后杯を下賜いただく大会に成長している。



【優勝・準優勝選手と】

評価された点

- ・「イイツカ方式」と呼ばれる延べ2,000人規模の市民ボランティアが運営を支え、そのホスピタリティーが世界的にも認められているのは高く評価できる。今後の永続的な活動が期待される。
- ・日本でいち早く車いすでの国際的なテニス大会を開催しており、独自のボランティア方式により運営が行われている。ボランティアも年々増加しており、「イイツカ方式」は2020年のパラリンピックでのボランティア活動のモデルになるのではないかと考える。また、多くの地元企業や団体から協力を得ており、地域を挙げての取組みである点が評価できる。
- ・リハビリにとどまらず、障がい者スポーツとして、病院とともに車いすテニスを広め、普及させたことへの貢献は大きい。
- ・地域の特性を活かし、車いすテニスをきっかけに、地元企業や住民と連携した先進的取組みとして評価できる。



【選手と小学生の交流】



【輸送ボランティアによる選手送迎】

概要

清流・神浦川を水源に持つ美しい大中尾棚田は、平成11年に日本の棚田百選に選定され、本団体を中心として、長崎県で初めて「棚田オーナー制度」を創設するなど、地域ぐるみで保全活動に取り組んでいる。

棚田のPRイベントである「大中尾棚田火祭り」については、地域と自然が作り出す美しい景観を次の世代に引き継いでいくための取組みとして全国的に高い評価を得ている。



【田植え(棚田オーナー制度)】

評価された点

- ・ 棚田を守るためのオーナー制度を上手く活用している。
- ・ 棚田オーナー制度は当初の1組4名から、35組511名にまで拡大している。さらに新規就農者が活動しやすい環境作りに尽力している。
- ・ 地域資源を大切にしており、自立的資金集めに取り組みながら継続させている等、持続経営型である。地域にとって重要な役割を果たすと期待します。
- ・ 「棚田オーナー制度」を創設し、地域外からも人を呼び込む仕組みと持続的に取り組んでいる点を評価。



【稲刈り(棚田オーナー制度)】



【大中尾棚田火祭り】

定住促進

環境保全

産業振興

コミュニティ

産学官連携

概要

「誰か森林整備をしてほしい」の声に応えて、森林所有者と林業事業者のつなぎ役として、森林作業員ゼロから間伐や植林などの人工林整備に取り組み、活動開始10年間で森林所有者との経営受託面積は1,360haとなった。

住民や学校参加の森林環境保全活動の支援にも取り組み、行政や林業事業者を巻き込んだ約2,000haの森林集約化団地設置にも貢献している。

また、担い手育成にも取り組み、連携する林業事業者は34事業者110名に増えており、さらに活動範囲を拡大している。



【森林整備活動】

評価された点

- ・ 2,000haの森林集約化事業は、全国でも珍しい。
- ・ 森林整備のモデル的事業として高く評価できる。その成果として、経営受託面積1360haにまで広がっている。他の森林組合との連携も広がってきている。
- ・ 現在、日本の山は荒れ果て、土砂崩れ等の災害が多発している大変な状況の中、森林整備に取り組んでおり、環境保全活動が広がっていることが高く評価できる。



【林業担い手育成活動】

概要

五穀豊穡を祈る奉納や大衆の娯楽文化として地域に根差して伝承されてきた庄内神楽を軸に町を盛り上げていこうと、12の神楽座が一丸となり本団体を発足させ、以来、継続して定期公演、神楽祭りを開催し、出張公演や体験教室にも取り組み庄内神楽の伝承と地域活性化に尽力している。

阪神淡路大震災や東日本大震災の慰問公演等も積極的に行う傍ら、ジャズとのコラボレーションや海外公演など新たな挑戦も試みている。



【庄内神楽祭り】

評価された点

- ・ 座員は全員本業を持ちつつ、ボランティアで年間150件もの出張公演を行っている。地域への愛着があってこそこの活動だろう。伝統芸能に西洋音楽を融合させたり、SNSで海外発信をしたり、新しい試みにも挑戦。26年間、一度も途切れることのない継続した取り組みである点にも敬意を表したい。
- ・ 古くからの伝統芸能であり高齢化が進んでいる者の世代の循環が図られている。また、海外での公演やSNSでの発信により、多くの公演を果たしている。独創的な公演や地域の子どもを巻き込んだ活動など将来も伝統文化として、地域を代表する文化として根強く継承されている点が評価したできる。
- ・ 神楽の里としてのイメージが定着するほどまでに浸透してきている。地域のイベントとしても広く受け入れられている。
- ・ 単なる伝統芸能の継承ではなく、伝統をベースとした挑戦を通じた地域活性化や次世代育成につながる活動として評価。
- ・ 文化継承を長く続けていくこと、そして課題は時と共に変化しながら、かつ、深化する両面に取り組んでおられ、高く評価したい。
- ・ 神楽によって地域に誇りを持ち、地元就職する人が増えて継承にもつながっていく人材が育っていることが評価できる。
- ・ 伝統芸能を保全と発信両面からとらえ、ジャズとのコラボレーション等、新規性のある取り組みをしている。



【神楽体験教室】



【ジャズと庄内神楽の融合】

概要

長年受け継がれてきた伝統行事や芸能、集落の景観を始めとする文化、また世界最大級のアオサング群集に代表される自然環境が残り、“サンゴ礁文化”とも呼ばれるサンゴ礁と密接な暮らしがある白保であるが、昭和54年に発表された新石垣空港建設計画や平成25年の新石垣空港の開港による観光客の急増等、変化の波が押し寄せている。

村の自治組織である白保公民館が村づくりの目標や方針を制定した「白保村ゆらていく憲章」に基づき、伝統文化や自然環境の保全・継承、地域の活性化等の村づくりに取り組んでいる。



【グリーンベルト植栽】

評価された点

- ・ 環境保全、環境教育に留まらず、グリーンベルト商品の開発、販売により協力農家の収入増に結び付けている活動は評価できる。環境教育を受けた子供が、大人になりスタッフに加わるなど、人材育成にも成果がでている。
- ・ 長く活動が続ける中で、環境教育を受けた子供が大人になってスタッフとして活動に参加するなど、成果が形になってきている。企画、実行、活動費の獲得まで、環境の専門家と住民が連携して主体的に活動に参加する人を増やしており、地域の活性化につながっている。
- ・ 企画から実施まで住民を巻き込んで主体的に実行しており、小中学校の環境教育を受けた子どもが大人になりスタッフとして参加する等、地道に継続されてきた活動が、グリーンベルト植栽を通じたサンゴ保全の顕著な効果につながっている点について、継続性があり評価できる。
- ・ 教育活動から、自然保護活動、環境調査活動、日曜市の運営など多彩な活動を行っている。
- ・ 空港建設計画により村を二分するほど疲弊した地域が、アオサングをアイコンにして持続可能な地域づくりに尽力してきた活動に敬意を表して評価。
- ・ 取り組みが地域のイメージ向上につながり、雇用の創出となり、主体的に取り組んでいる点が評価できる。



【白保学講座】



【白保日曜日市】

秋田県由利本荘市

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

観光振興・交流

産業振興

コミュニティ

概要

急速に進む人口減少・少子高齢化に歯止めをかけ、地域の活性化に結びつけるため、「国内外から人と財が集まる地域価値の創造」を戦略方針に掲げ、特命部署の設置による県外在住者の移住・定住の促進や、山菜や木材などの地域資源に着目した産業創出、町内会・自治会単位での「地域の元気づくり」に取り組んでいる。

後継者のいない事業の移住者への「継業」や、山菜ビジネスの首都圏への販路拡大、住民主体の「お互い様スーパー」の開始など、地域活力の維持に向けた具体的な成果が現れている。



【春の天然山菜フェア(東京都)】

評価された点

- ・ 産業創出、後継者育成、移住・定住の促進など、積極的に取り組んでいる。その結果、人口減少にも一定の効果があり、お互い様スーパーなどの住民主体の活動が次々と生まれていることは心強い。
- ・ 移住・定住に関するワンストップの支援窓口である「仕事づくり課」の新設もあり、平成27～29年度で136人も移住者を受け入れている点について、事業の成果が大いに認められる。また、移住に当たって特に課題となる「仕事」に関して、起業支援のみならず「継業」を推進することで、後継者不足の解消につなげている点も特色ある取組として評価できる。
- ・ 人口減少と少子高齢化が進む由利本荘市の持続的発展に向けて、「国内外から人と財が集まる地域価値の創造」を戦略方針に掲げて特命部署を設け、県外在住者の移住・定住の促進や山菜・木材などの地域資源を活かした産業創出等、町内会・自治会単位での「地域の元気づくり」に取り組んでいる点を評価。後継者のいない事業の移住者への「継業」や、山菜ビジネスの首都圏への販路拡大、住民主体の「お互い様スーパー」の開設はユニークで興味深い。
- ・ 特命部署の設置など移住、定住の促進や産業創出に積極的に取り組んでいる点が評価できる。
- ・ 地域の町内会主体による元気づくりの支援や移住・定住の促進など、人口減少の歯止めを積極的に行い、住民主体の共同運営につなげている点を評価。



【バイヤーによる山菜の視察】



【「移住・定住」相談会】

群馬県みなかみ町

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

環境保全

産業振興

概要

山林や里山が全体的に荒廃しつつある中、より多くの方々が森林や林業に関わりを持ち、森林資源の有効活用を促進することで環境を保全するため、山林所有者や地域住民が主体的に継続して携わることができる「自伐型林業」を推進し、多様な人材を巻き込んだ担い手の育成に取り組んでいる。また、搬出された木材を木育やエネルギー、用材として有効活用するなど、持続可能な地域づくりを推進している。



【自伐型林業研修会】

評価された点

- ・ 自伐型林業推進の好事例。国産材家具メーカーとの連携による、広葉樹の製品化やみなかみユネスコエコパークを活用したブランド化、東京おもちゃ美術館などと連携した木育キャラバンなど活動の範囲が多岐に渡っている
- ・ 本事業によって、多くの地域住民が森林資源の有効活用、環境保全の大切さに気付き、自ら主体的に関わり始め、活動の幅が広がりつつある。地域課題の解決を地域活性化につなげることに成功しており、今後のさらなる発展が期待される。
- ・ 林業を産業分野としてだけの視点でなく、地域づくりとして、住民と一体に活動をしている点を評価したい。基本となる林業の再生の視点はもちろんのこと、環境を理解してもらい、未来の担い手づくり等への努力を続けておられます。林業とは私達の暮らしを支える基幹産業であり、生命を守るため、継続性が高く住民一体となって取り組むべきテーマであると思われまます。
- ・ 森林資源の活用に積極的に取り組んでいる点と多様な人材を巻き込んだ担い手の育成に成果を上げている。



【環境教育の推進】



【地域材で木育を推進】

愛知県岡崎市

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

企業化支援

産業振興

概要

平成25年10月に岡崎市と岡崎商工会議所が連携し、「富士市産業支援センターf-Biz」をモデルとした「岡崎ビジネスサポートセンターOKa-Biz」を開設。

ミッションとして、「きく」、「みつける」、「ささえる」を掲げ、売上向上の課題を抱える市内の事業者の声をじっくり聞き、真の強みを見つけ、前向きに解決策を一緒に考え、継続的にサポートしている。



【相談の様子】

評価された点

- ・若手の相談員、女性スタッフを多数配置するなど、独自の相談体制を整え、開設から4年8ヶ月で150件の創業支援、雇用創出効果525件という大きな成果をあげている。創業者の4割が女性という点も注目される。全国の自治体のモデルとなる取組み。
- ・全国の自治体から注目を集めている「f-Biz型中小企業相談センター」を自治体主導として初めて開設・運営し、創業支援や雇用創出効果など突出した成果をあげている点が評価できる。また、積極的に女性スタッフを起用し女性のチャレンジを応援するためのサポート体制も整えられている。
- ・地域からの創業にしっかりとした実績を上げている。
- ・岡崎ビジネスサポートセンターの成果は顕著で受賞に値すると評価したい。

OKa Biz 岡崎ビジネスサポートセンター

OKa-Bizとは…
 堅実に努力する岡崎の中小企業や起業家に光を当て、より輝けるよう応援する産業支援拠点です。「きく」「みつける」「ささえる」をテーマに、あなたのチャレンジをホンキでサポートします。

ビジネスの悩みありませんか？

- 商品の開発したい！これから販路を開拓したい
- 資金繰りを改善したい
- 売上げを伸ばしたい
- どこに相談していいかわからない
- 何かしないといけないと思ってるけど…
- 新しいお店をオープンしたいけど…
- 悩んでいるけどどうしていいかわからない
- もっと集客したい
- 事業の先行きが不安何か打開したい…
- 起業したい

まずは、OKa Bizに相談してみよう

3つの特徴

- きく**
「売上を伸ばしたい」「新しいことをしたい」と思い立った時点で相談をお願いします。業種は問わず、あらゆる事業の相談にお応えします。
- みつける**
「売上が伸びない」「課題や強みは自分では分からないもの、あなたにしっかりと向き合い、課題や強みを見つけ、何をしたらいいかを明らかにします。
- ささえる**
相談を聞くだけでは終わらせません。皆さんと同じ目線で、積極的に前向きな解決策を一緒に考え、あなたのチャレンジをサポートし続けます。

【岡崎ビジネスサポートセンターOKa-Biz】

個人表彰

森山 奈美

石川県七尾市

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

まちなか再生

コミュニティ

その他（人材育成）

概要

民間まちづくり会社「御祓川」を経営。まち育て・みせ育て・ひと育ての三本柱でソーシャルビジネスを展開し、地域の中間支援組織として課題解決につなげている。

- ・まち育て：空き店舗を改装しコワーキングスペース「banco」として広く市民に開放するなど、民間の活力による不動産活用を促進
- ・みせ育て：能登の特産品を紹介するネットショップ「能登スタイルストア」の運営などを行う
- ・ひと育て：能登の地域や企業に若者を派遣し、課題解決に取り組むインターンシップ「能登留学」やまちづくりを担う人材育成講座「御祓川大学」のコーディネートなどを行う



【森山 奈美 氏】

評価された点

- ・まちづくり会社御祓川を設立し、まち育て、ひと育て、みせ育てのコンセプトを通して、数々の事業を展開。能登留学や御祓川大学などの事業では、地域内外の若者と地域をつなぎ、移住促進や賑わいの創出を果たしていることは注目に値する。
- ・まちづくり会社「御祓川」を通して、地域に若者の流れをつくり、賑わいを創出しているほか、市民や移住者が気軽に集えるプラットフォームづくりを行うことで、地域の活性化を図っている。
- ・まちづくり会社の成功例としてモデル性が高い。また、活動も多彩である点を評価したい。
- ・「御祓川」をアイコンとして様々な活動を展開し、地域文化、地域資源を生かした起業、人づくりに貢献してきた点を評価。
- ・ソーシャルビジネスの取り組みはすばらしい。



【御祓川大学「banco」での講座】

概要

京町家居住者として、京町家の保全再生に取り組む。

平成4年に特定非営利活動法人京町家再生研究会の設立に関わり、平成8年から事務局長、平成24年から理事長を務める。

京町家の歴史や現状に関する調査・研究、周知活動、京町家再生の実践など、京町家の保全・再生を目的に精力的な活動を続けている。

評価された点

- ・京町家に住む一人の当事者としての思いからスタートした取組みが20年を超える年月を経て、京町家の保全再生のみならず、地域文化を継承していく大きな力となっている。京町家に関する調査・研究、海外の先行事例研究にも力を入れ、専門的知識に裏付けされた活動を続けている点も評価に値する。
- ・当事者としての課題発見から始まった四半世紀にわたる継続的な活動と、そのプロセスにおいて文化継承とともに町家を活用した経済効果も含めた地域活性化への貢献を評価。
- ・京町家保全の第一人者であり、評価に値する。



【小島 富佐江 氏】



【京町家再生プロジェクト】

概要

県外の大学を卒業後、島根県松江市に本社を置く山陰中央新報社にUターン就職し、ふるさとで働く喜びに目覚める。在職中に東京支社勤務を経験する中で、島根をはじめとした地方のニュースが東京に伝わっておらず、都市と地方が分断されているのではないかという問題意識を持つようになった。

島根県は日本社会が直面している人口減少の最先端の地域であり、島根県が抱える課題、そして課題解決に力を注ぐ人々やその生き様を記録、発信することをライフワークとすべく独立を決意し、同社退社後は自ら名付けた「ローカルジャーナリスト」として、変わらず島根を拠点に活動している。



【田中 輝美 氏】

評価された点

- ・ローカルジャーナリストとして、島根という過疎地域が抱える課題や、その問題解決に奔走する人々の様子を広く発信するとともに、地方に生きる一人ひとりの挑戦を後押しすることで地域の活性化につなげている。
- ・みずからリスクを取り、ローカルジャーナリストの活動を地元で根差して継続していることを評価したい。



【取材活動】



【島根県主催「しまねアグリセミナー」】